



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2024年10月30日発行 第75号

久しぶりの発行となります。この1ヶ月で国政選挙が行われ、結果として与党の過半数割れという国民による審判が下されました。民主国家の選挙は1票の民意が生きる制度であり、専制国家の独裁政治と比べ、私たちはなんと幸せな国家に暮らしているのだろうかと思ってしまうことしきりです…。これから政治改革が進むのか、関心を持って注目していきたいと思います。

さて、本アカデミーにおいても改善が必要などころはないだろうか常に謙虚な姿勢で取り組まなければならないと思っています。財政的には厳しいものがありますが、これこそ民意の要望が高まれば、私たちが描く夢が自ずと目標にたどり着いていくのではないかと期待するところです。私たちの行っていることは世の中では一番後回しになりがちですが、先人の言葉「ご飯はいのちの糧、音楽はこころの糧」に励まされ、自信と誇りをもっていきたいものです！

IZUMOpera コーナー

● 特別主位研究講座の開催！

出雲芸術アカデミー事業には大きく分けて【出雲フィル】（オーケストラ&合唱の活動）、【音楽院】（人材育成活動）と【音楽研究院】（学術研究活動）の3つの分野があります。【出雲フィル】の活動は各種公演事業に係る演奏活動を指します。また、【音楽院】の活動は「舞台芸術創造コース」と「生涯楽修コース」があり、それぞれ各講座を開催し日々の活動を実施しているところです。一方、【音楽研究院】の活動は、『主位研究』『基礎研究』『演習講座』があり、その中の『基礎研究』はiPhil会員の参加による、「器楽」はオーケストラレパートリー講座に連動し、「声楽」はアクティング・クワイア講座と連動しています。そして『演習講座』はオペラ研究の場であり、クラウド・オペラ講座に連動しています。

今回は、【音楽研究院】の『主位研究』について紹介します。『主位研究』はアカデミー音楽院の指導者の皆さんの研修の場として捉えることができます。たとえ指導者であっても日々の研修を怠れば、独創性や新鮮さを失うなどマンネリズムに陥りかねません…。そうならないためにも本アカデミーでは、「マエストロの特別主位研究講座2024」を実施します。この講座は、私たちのコンサートマスターであるヴァイオリン奏者の高畑壮平さんをお迎えし開催します。11月8日から3クルーに分けて、1月開催の「ニューイヤーコンサート」まで出雲に滞在していただき、長期間にわたってアカデミーに関わっていただこうと思っています。長年ドイツのオーケストラでコンサートマスターとしての地位を定年まで継続されることは、並大抵のことではないことです。そのノウハウをここアカデミーで学べるチャン

次ページへ

スがあるという事を指導者の皆さんと共有したいのです。高畑さんはヴァイオリン奏者ですが、コンサートマスターとなると弦楽器に限らずオーケストラに関わる全ての楽器に影響を与えなくてはならないポジションです。オーケストラの質を向上する技術や高畑さんと指導者の皆さんが交流することを通して、様々な学びの場が生まれることを期待しています。

高畑さんの出雲滞在スケジュールが分かる「音楽レッスン」案内チラシを作成していますのでご覧いただき、個人でもアンサンブルでも実演や見学、または相談だけでもよいと思いますので計画され、有意義な時間と空間を過ごしていただけたら喜びます。なお、広くお知り合いの方にも紹介されてもいいと思いますので、併せてよろしくお願い致します。

● 音楽堂等活性化事業へ補助金の申込！

今回も令和7年度の助成対象事業募集について文化庁へ申し込むことになりました。例年「公演事業」「人材育成事業」「普及啓発事業」の3つの部門をセットで申し込んでいますが、近年「公演事業」については不採択が続いています。今年度は「普及啓発事業」(アウトリーチ)も不採択となりました。そのような状況下で来年度もこの事業に申し込むわけですが、相当の意識改革と事業の見直しも迫られているといっても過言ではありません…。

現在、中井芸術監督以下アカデミー事業課では連日の会議(含リモート)や事務作業に追われる毎日です。そのような激務の成果が報われるよう祈るばかりですが、関係する皆さんも関心事として捉え、見守っていただきたいと思います。申し込みが完了いたしましたら、状況等をお知らせしていきたいと思っております。

フォトギャラリー



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】